

高等学校 国語

古典

学習プリント

古文文法・漢文句形 定期テスト対応

— 解答入り版 —

【 】の中が答えです。赤い下じきを当てると消えるので、
買ってすぐ、そのまま暗記チェックに使えます。
「発展」のついた内容は、定期テストの標準をこえるやや高度な内容です。
余裕があるときに取り組めば十分です。

目次

■ 古文文法

- 第1章 歴史的仮名遣いと古文の基本
- 第2章 動詞の活用
- 第3章 形容詞・形容動詞
- 第4章 助動詞（1） 過去・完了
- 第5章 助動詞（2） 推量・意志
- 第6章 助動詞（3） 受身・使役・打消・断定
- 第7章 助詞
- 第8章 敬語
- 第9章 紛らわしい語の識別
- 第10章 和歌の修辞

■ 漢文

- 第11章 訓読の基本
- 第12章 再読文字
- 第13章 否定形
- 第14章 疑問形と反語形
- 第15章 使役形と受身形
- 第16章 比較形と選択形
- 第17章 仮定・限定・累加
- 第18章 抑揚・詠嘆・願望

■ 巻末資料

- 巻末資料① 助動詞 接続・活用・意味の一覧
- 巻末資料② 重要古文単語 155 語
- 巻末資料③ 漢文 句形まとめ

◆この冊子の使い方

- ・【 】の中が答えです。赤い下じきを当てると消えるので、くり返し確認できます。
- ・「書きこみ用」は同じ内容が空らんになっています。答えを書きこんで練習しましょう。
- ・各章の終わりの「◆確認」は、答えを見ないで説明できるかをためすための問いです。
- ・助動詞は「接続・活用・意味」の三点をセットで覚えてください。この三つがそろえば、識別問題はほとんど機械的に解けます。

第1章 歴史的仮名遣いと古文の基本

■ 1 歴史的仮名遣いの読み方

- ・語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「【わ・い・う・え・お】」と読む。例…「あはれ」→【あわれ】、「思ふ」→【おもふ】。
- ・「ゐ・ゑ・を」→「【い・え・お】」。例…「ある」→【いる】、「こゑ」→【こえ】。
- ・「む」→「【ん】」。例…「なむ」→【なん】。
- ・「ぢ・づ」→「【じ・ず】」。「くわ・ぐわ」→「【か・が】」。
- ・「au・iu・eu・ou」の音は長音になる。「au」→【ô】（例「やうやう」→ようよう）、「iu」→【yû】（例「きうに」→きゅうに）、「eu」→【yô】（例「けふ」→【きょう】）。

■ 2 古文を読むときの心得

- ・古文では【主語】が省かれることが多い。敬語の種類と【助詞】を手がかりにして補う。
- ・現代語と形は同じでも意味が違う語を【古今異義語】という。例…「あからさま」＝【ほんの少しの間】、「ありがたし」＝【めったにない】。
- ・【品詞】は、自立語で活用するもの（動詞・形容詞・形容動詞）を【用言】、活用しないもの（名詞）を【体言】という。
- ・活用形は【未然形】・【連用形】・【終止形】・【連体形】・【已然形】・【命令形】の6つ。現代語の「假定形」にあたるものが古文では【已然形】である。

発展 已然形は「すでにそうになっている」という意味で、「～ば」がつくと現代語の「～ので・～と」にあたる【確定】条件になる。未然形＋「ば」が【假定】条件（もし～ならば）である。この区別は入試でも定期テストでもよく問われる。

◆確認

- ☐ 「けふ」「やうやう」を現代仮名遣いで読めるか。
- ☐ 未然形＋「ば」と已然形＋「ば」の意味の違いを説明できるか。

第2章 動詞の活用

動詞の活用九種類

活用の種類	例	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
四段	書く	か	き	く	く	け	け
上一段	見る	み	み	みる	みる	みれ	みよ
上二段	起く	き	き	く	くる	くれ	きよ
下一段	蹴る	け	け	ける	ける	けれ	けよ
下二段	受く	け	け	く	くる	くれ	けよ
カ行変格	来	こ	き	く	くる	くれ	こ（よ）
サ行変格	す	せ	し	す	する	すれ	せよ
ナ行変格	死ぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
ラ行変格	あり	ら	り	り	る	れ	れ

※上一段は「ひいきにみる」、下一段は「蹴る」だけ。ラ変は終止形が「り」で終わるのが特徴で、終止形接続の助動詞がラ変には連体形につく理由になる。

■ 1 活用の種類は九つ

・ 古文の動詞の活用は【9】種類。【四段】・【上一段】・【上二段】・【下一段】・【下二段】・【カ行変格】・【サ行変格】・【ナ行変格】・【ラ行変格】。

- ・ 見分け方…動詞に「【ず】」をつけて、直前の音（未然形の語尾）を見る。
- ・ ア段の音になる → 【四段】活用（例「書かず」）。
- ・ イ段の音になる → 【上二段】活用（例「起きず」）。ただし上一段は数が少ないので先に覚える。
- ・ エ段の音になる → 【下二段】活用（例「受けず」）。ただし下一段は「【蹴る】」だけ。

■ 2 数の少ない活用は暗記する

- ・ 【上一段】活用…「ひいきにみる」と覚える。干る・射る・鋳る・【着る】・似る・煮る・【見る】・居る・率る など。
- ・ 【下一段】活用…「【蹴る】」の一語のみ。
- ・ 【カ行変格】活用…「【来】（く）」の一語のみ。活用は こ・き・く・くる・くれ・こ（よ）。
- ・ 【サ行変格】活用…「【す】」「【おはす】」。活用は せ・し・す・する・すれ・せよ。
- ・ 【ナ行変格】活用…「【死ぬ】」「【往ぬ（去ぬ）】」。活用は な・に・ぬ・ぬる・ぬれ・ね。
- ・ 【ラ行変格】活用…「【あり】」「【をり】」「【侍り】」「【いまそかり（いますかり）】」。活用は ら・り・り・る・れ・れ。終止形が「【り】」で終わる点の特徴。

※ラ変の終止形が「り」であることは、終止形接続の助動詞（べし・らむ・めり・なり）がラ変には【連体形】につく理由になる。

◆確認

- 「ず」をつけて活用の種類を見分ける方法を説明できるか。